

グローバル化に向けた英語教育の新しい仕組み

英語教育推進リーダー
中央研修

文部科学省委託事業

近年のグローバル化や2020年東京オリンピックを見据え、英語力の向上は極めて重要な課題です。「受験のための英語」ではなく、コミュニケーションを図るための「手段」として英語を教える。その指導方法を修得するための全く新しい取り組みが**英語教育推進リーダー中央研修**です。

中央研修 3つの特徴

体系を学ぶ



効果的な指導法を自ら生徒役となり体系的に学ぶ

実践してみる



学んだ指導法を模擬授業や自身のクラスで実践

伝達する



研修を受けた教員が全国各地で講習を実施

中央研修のねらい

小学校



楽しみながら英語になれ親しむための、小学生に合わせた学習方法を修得する

中学校・高等学校

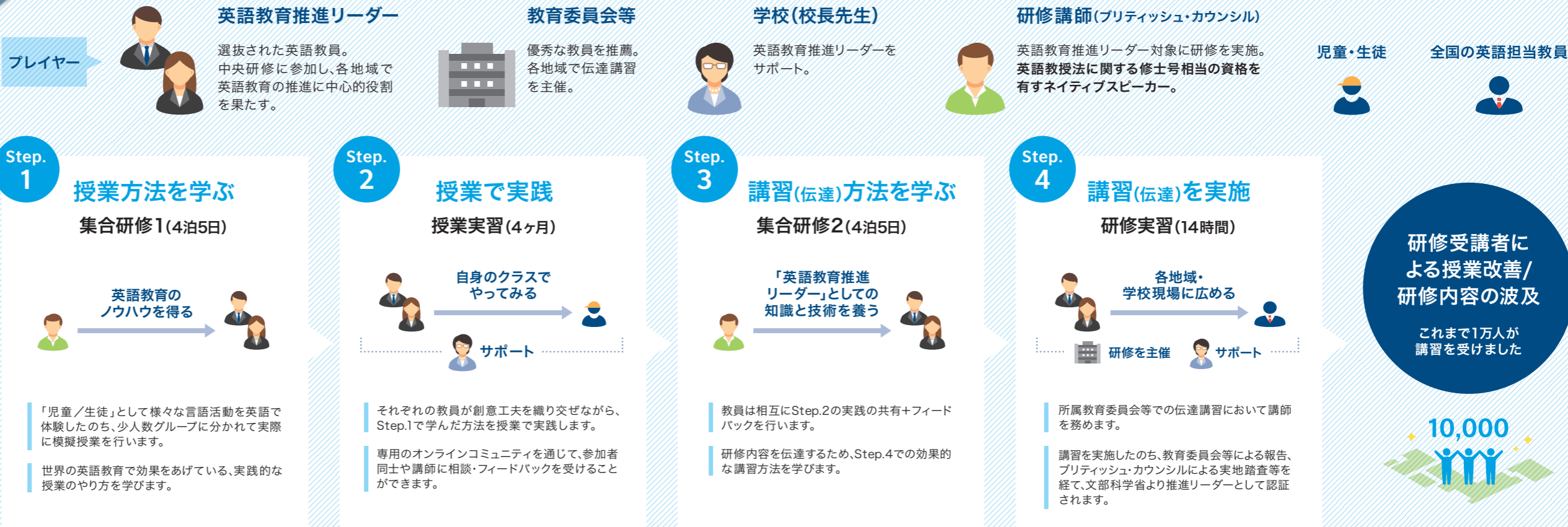


英語を用いた「コミュニケーション」中心の指導方法を修得する

アクティブ・ラーニングをベースとした研修内容



学習者からの視点で



生徒は話すことへの抵抗が少なくなり、コミュニケーション活動に積極的に参加するようになりました。英語は協働作業を取り入れたアクティブラーニングを通して身につくことを体得したようです。(高校教員/推進リーダー)

英語でほとんど授業がすすむから、耳が慣れるのでとてもよいです。友達とコミュニケーションを取る機会がたくさんあり、実際に話すので内容も覚えやすいです。(中学校生徒)

授業では、活動の指示はほとんど英語で行っている(行いたい)

小学校教員

研修前
15%

研修後
70%

調査概要: 中央研修に参加した教員へ、中央研修前後に行ったアンケート調査結果
回答数: 小学校205名、中学校189名、高等学校112名
調査時期: 2015年4月~7月

自分の考えや意見を「話す」能力を向上させるための言語活動を、積極的に展開している(したい)

中学校教員

研修前
37%

研修後
94%

高校教員

研修前
29%

研修後
86%

充実した1週間でした。実際に教員を教えることを想定しての研修は、とてもよいと思います。集合研修1の内容を復習できたので、すごく満足しています。(小学校教員/推進リーダー)

推進リーダーの先生は明るく情熱的にリズムを持って研修を行ってくださったので、とても楽しめました。あのように授業をしたいです。(中学校教員)

研修の結果